

初心者による、

初心者のための

& ボート

# ヨット挑戦記

～部屋を出よう、海へ行こう～

## 初セーリング

in マリンボックス100 (後編)

アウトドアよりインドア派。風雨を凌げる場所が好き。水泳、読書、映画鑑賞と、趣味は一人ですものばかりの、マリン初心者幸野が、ヨットの世界にお邪魔します。3回目も「マリンボックス100」(神奈川県逗子市)でセーリング。これまでに、ラダー操作、タッキング、ジャイビングなどを学び、それらを生かして、いよいよ一人での操船に挑戦!果たしてうまくいくのか!?

文=幸野庸平(本誌) 写真=山岸重彦(本誌)  
text by Yohei Kono (Kazi), photos by Shigehiko Yamagishi (Kazi)

おなか出てる?



幸野庸平(このう・ようへい) 1988年生まれ。大分県出身。Kaziの新人編集部員で、マリン素人。趣味は、水泳と読書。10月に読んで面白かった本は、赤瀬川原平「妄想科学小説」。

### ぐうの音も出やしない

前回までに、タッキングとジャイビングを教わり、華々しきセーリングライフの扉を半分くらいまでこじ開けることに成功した私。ウェアも買ったし、それなりに帆走できたし、まさしく順風満帆。海の男と称される日も近いぞ!と、早くも天狗になりかけていたのだが、その伸びた鼻を折らんとする言葉が、師匠の沼野陽人さんの口から飛び出した。「一人で乗ってみましょうか」。何を言っているのだろう、と思った。実を言うと、今回の取材では、本来3日間かけて学んでいく内容を、撮影の都合上、2日間に短縮してもらっていたのだ。つまり、まだ乗艇2回目なのである。できるわけがないのである。バランスを崩して、沈んで笑われるのが、関の山なのである。こんな私だって男の端くれ。メンツというものが一応ある。恥をかきたくない。なんとか、回避する方向に持っていかなければ。

**私**「師匠!ジブの扱い方が分からないので、無理です!」

**師匠**「ジブは収納して、メインセールだけで帆走してもらいます」

**私**「センターボードとか、ラダーの操作も不明です!」

快晴、微風の下、本当の、本当に一人でセーリングを楽しんでいる



自由って、すばらしい!



師匠の沼野陽人さんと、これまでに習った動き、注意点を確認する

**師匠**「私がセットしてから、出艇してもらいます」

**私**「沈したら大変です!」

**師匠**「このコンディションなら、安定感があるシーラークは、沈しません」

**私**「恥をかきたくない!」

**カメラマン**「そっこのほうがおもしろいで!カメラさんまで……。ぐうの音も出ない、とは、こういうことをいうのだろう。完敗である。でも、よくよく考えてみれば、この連載のタイトルは「挑戦記」。挑戦してなんぼなのである。やれやれ、私は覚悟を決めた。

### 自由であるということ

まずは沖で一人で操船練習。そのために必要なスキルは、的確なラダー操作やシートの引き具合、タッキング、ジャイビングなど、多岐にわたるが、これらは何度も繰り返

しやってきたし、一人操船の前に再度、沼野さんと共に確認することができた。難しいのは、それらをどのタイミングで行うかの判断である。大きさように聞こえるかもしれないが、ぼーんと海に放り出されると、海の上には目安となる人工物なんて、ほとんど何も存在しないのだ。

動きの再確認を終え、いよいよ一人操船という運び。沼野さんには撮影用ボートに移ってもらい、私は一人で大海原へと繰り出す。撮影ボートから離れていくとき、大学進学のために、地元を離れ東京に出てきたときのことを思い出していた。あのときと同じように、後ろは振り向かないと心に決めながら、来るべきタッキングのタイミングを待つ。とはいえ、その目安は、上述したように、ない。なので、適当なタイミングでタッキング。不安になり、思わずちらりと師匠のほうを見



撮影用のボートから離れていく私。見よ、この寂しい背中を!



撮影用のボートから、一人で操船する私を見守る、師匠の沼野さん



撮影用のボートを、一人でぐるぐる回り終え、戻ってきたところ。ボートに近づけず四苦八苦

る。何か言っているようだが、聞こえないので気にしない。

そのまま、さらに風上へと上り、適当なところでベアアウェイ(風下へ針路を変えること)して、こちらも適当なタイミングでジャイビング。師匠はまた何か言っているようだが、聞こえない。これの繰り返しだ。それにし

### 今月の師匠

#### 沼野陽人さん

1972年生まれ。高校時代は陸上部で汗を流し、大学からヨットを始める。大学では主に470級に乗り、卒業後にシーホッパーを購入して、各地への遠征や、レースを楽しむ。また、さまざまな年齢層、職業の人との交流で、勝ち負けだけではないヨットの魅力を知る。ビギナーの気持ちに寄り添った丁寧な指導は、何かと不安の多い初心者に大好評だ。



### お世話になりました!



### マリンボックス100

逗子海岸にすぐという好立地の総合マリンレジャー施設。ヨットスクールのほか、ヨットや水上オートバイのレンタル、艇保管、船舶免許教習なども行っている。

神奈川県逗子市新宿2-14-4 TEL: 046-872-1550 <http://www.marinebox.co.jp/>

### 初心者向けのヨットスクールプログラム

- 体験コース(1日): 15,000円(税込み) / 1人
- ベーシックコース(3日): 41,000円(税込み) / 1人
- ※複数人同時受講で割安に

ベーシックコースの初日と、体験コースは同じ内容。差額を払えば、体験コースを受けてから、ベーシックコースの残り2日分を追加で受講することも可能だ。



見事に一人操船を成功させ、喜びのあまり海にダイブ!



10月の海は意外にも温かく、気分も良いのでそのまま泳いで帰った

当に。ちなみに、一人操船をする私に、沼野さんが叫んでいたのは、「がに股になっているよ」でした。これは、本当にこれからの課題になりそうです。

### 慌てふためきながらも……

とりあえず、沖で一人で乗ることはできた。あと残っているのは、海岸から一人で出ていき、戻ってくる、だけ。これができれば、一人前とは言わないまでも、「僕、ヨットに乗れるんだよね」と自慢していいレベルだと思う(本当は全然自慢できないレベルだと、あとで判明する)。

マリボックス100での最後の挑戦を前に、私はイメージトレーニングを繰り返す。沼野さんが一人で練習しているのも気にせず、イメトレに励む。そして海を眺め、感



1日に及ぶコースではお弁当が付きま。食べて、昼からまたセーリング

## こんなことにも挑戦!

### 海に浮かぶカメラマンのすれすれを帆走!

何かと水中に入りがると噂の、山岸カメラマン。この日も水中用にハウジングしたカメラを片手に、「水の中で待ってるから、ギリギリを帆走してくれ!」と言い残して、海へと消えていった。



水に浮かんでいるカメラマンのすぐそばを通過するのは、勇気が必要

慨にふけり、「行きましょうか」と生意気に呟いて、艇に乗り込む。

沼野さんに、船尾をそっと押しもらい、一人で沖へと出ていく。風は海から吹いてくるので、クローズホールドで上り、陸から離れていく。これまで何度も繰り返したことを、またやればいだけなのだが、スピードが出ない。なぜか。一人操船用にジブを収納したため、ジブがない。つまり、ジブに付いているテルテルもない。私はアイツが大好きなのだ。アイツがいなければ、風向きなんて分かるはずがない。アイ



練習する沼野さんを尻目に、イメージトレーニングを行う

ツに依存しすぎている自分を反省しつつ、やみくもに針路を変え、かろうじてスピードを維持する。

ある程度進んだところで、タッキング。これはうまくいった。「大丈夫だ、問題ない」と自分に言い聞かせながら、徐々にベアアウェイして、船首を海岸に向ける。そして、適当なタイミングでジャイビングをして——というところで、失敗。大きくバランスを崩す。急に頭が真っ白になって、次の動作を忘れる。ジャイビングするときは、メインシートの束をつかんで投げののだが、それを失念。さらに、船首が風軸を越えても、セールを返さないと謎の荒業を披露し、おたおたしながらの帰還となった。

### 深すぎる、ヨットの世界

計2回、マリボックス100でのデインギューセーリングをやってみて、風の力だけで進む



真剣な表情でジャイビングを繰り返しながら、岸へと近づいてくる私。頑張れ、あと少しだ!



巣立ちを見守る親鳥のような沼野さんと、不安げに振り返る私



いつになく真剣な表情で、動きの確認をする私



相変わらず沼野さんに気づかず、感慨にふける

ということがどういうものか、なんとなくではあっても分かったし、ヨットの魅力も感じる事ができた。そして、この原稿を書いている今も、早く乗りに行きたくて仕方がない。早く上手になって、友人を乗せてセーリングしたい。すっかり上機嫌の私だが、編集部の先輩から、「沖での一人操船なんて誰でもできる。浜出しできるようにならなくちゃね」と言われ、凍り付いた。私がやったのは、浜からとはいえ、ある程度水深のあるところまで沼野さんに押しももらってからの出艇。風向きや、出艇位置などを考えなくてはいい自力での浜出しとは、わけが違うらしい。ヨットの世界、深すぎるよ……。まだまだ勉強することがたくさんあります。



お世話になりました! インストラクターの沼野さんと、がっしり握手

### 初心者幸野の置き手紙

なんとかマリボックス100のベーシックコースを終えることができたが、これはまだまだセーリングの入り口段階。奥が深いのが、ヨットの魅力でもあるのだ。でも、ここまででも十分すぎるほど楽しい! 冬は風が安定してヨットにはちょうど良い季節。一緒に海へ行きませんか?

## つだけ覚えるヨット用語

### ① 沈(ちん)

ヨットが転覆すること。ビギナーが最も恐れることだが、デインギューにおいてはさほど珍しいことではない。字のように、「沈むこと」を指すわけではない。90度横倒しの状態を「半沈」、180度ひっくり返った状態を「完沈」、船首(パウ)から海中に突っ込むことを「パウ沈」などという。いろんな「沈」があるんだなあ。

### ② センターボード (centerboard)

フネの横流れを防ぐために、船底から垂直に下ろす翼状の板。追い風や、浅瀬に入るときは上げられるようになっている。ピンを中心にして回転させるようにして下ろすものをセンターボード、上下に抜き差しするものをダガーボードと呼び、区別している。風下航では、抵抗にかならないので上げておきたい。面倒くさい! でも、「大切なことは、大抵面倒くさい!」って宮崎駿監督も言っていたっけ。

### ③ スキッパー (skipper)

艇長。必ずしもキャプテンではない。セーリングデインギューにおいては、スキッパーとヘルムスマン(舵を取る人)を同じ意味で言うことが多い。クルーザーにおいては、同じではないことも多いので注意。スキッパー以外の乗員はクルーと呼ばれる。ちなみに、ヘルムスマンはクルーのポジションの一つ。どうです、混乱してきたでしょう?



覚えていただきたい!

### 心のレーダーチャート



一人操船には、確かに寂しさを感じる面がありますが、何か大きな壁を乗り越えたような達成感があります。ぜひ挑戦してみてください。